

さっそくだが、当日のことの前に準備段階も少し振り返りたいと思う。まずは、準備の少なさにとっても驚いた。本当に大丈夫かと心配だったが、トラブルもなく、半年以上かけて準備した中学時代の修学旅行よりも充実していた。

二高のすごさを改めて実感した。そして、最も印象に残っているのは、「アポ取り」だ。中学時代は先生方がすべて準備して下さって、そのレールの上を歩くだけだったが、今回は自ら道を作らなければならないということで、大変だった。緊張したが、しっかりとできて、今後につながる良い経験となった。前ふりが長くなってしまったので、そろそろ本題に入ろうと思う。

まずは、1日目のディレクトフォースについてだ。基調講演、グループセッションの順で3人のかたにお話しをいただいた。近藤玄太さんの基調講演はおよそ40分間であった。普段、苦手科目の授業は本当に長くかんじられ、苦痛なことも多いが、これは本当にあっという間で楽しかった。

近藤さんは、筋電義手を作っている方だ。そのモットーは、「ものづくり≒映画製作」で、ものは世界共通の言語だということだ。自分にはない、ユニークな発想に感じられた。その近藤さんのユニークな発想は製作されている義手にもよく表れている。「手がない」ということをコンプレックスから個性として活かそうというものだ。そのために、実際に利用者からアイデアを聞いたり、留学したり、さまざまな分野の人々と意見交換したりして生み出されたものが、「handiii や Hackbery」だ。これらは普通のものとは違って、デザイン性が高く、ファッションの一部として、またインテリアとしても利用できるようになっていいる。私も実際にはめさせてもらったが、本当にオシャレで、また、ちょっとした力の入れ具合で、実に細やかな動きができた。そして、最新の3D プリンターを利用したことで、コストが100万円以上だったものを3万円ほどにし、より多くの人に使えるようにしたということだ。今後はこの中に電子マネーの機能を入れたり、より丈夫にできるようにしたりするなどの、さらに進化させていくという。障害という困難が発想の転換でこんなにも良くなっていくということは私自身考えたことがなかったので、貴重なお話となった。何事も、とらえ方、考え方次第だ。

引き続きグループセッションが行われた。一人目は先ほどの近藤玄太さんだ。このようにして、積極的にチャレンジしたり、起業したりしている近藤さんにも新たな挑戦をする際には抵抗があるそうだ。しかし、自分の努力次第でことは変わり、できることから少しずつやっていけば、いつかは成功すると信じて今のようになったということだ。私も受け身の姿勢にならずに自分のやりたいことや変えていきたいと思うことは積極的に行動に移し、近藤さんのように世界に影響力を与えられるような人になりたいと思う。

二人目は、山田正実さんだ。山田さんは、仕事で米、英、オランダに12年滞在されていた方で、その実体験をふまえたお話をいただいた。その中で印象に残ったことをいくつかとりあげたいと思う。一つ目は、結局は皆同じ人間だということだ。どういうことかという、外国には出身や人種の違う人々がたくさんいるが、結局は同じ人なため、日本人がもつような先入観をなくしてほしいということだった。このことは、グローバル化して世界と戦うようになった厳しい現代社会では特に重要になってくるそうだ。つい自分の考えを押し付けがちになってしまうがここで、しっかり相手をとらえることでニーズが分かり、より話しやすくなるという。これはすぐに実践していきたい。また、山田さんは現在、大手企業の顧問をなさっているのだが、顧問の仕事は特別ということではなく、一般の社員さんが行うような仕事ときほど変わらないそうだ。私たちが想像できないような難しいことをなさっていると思っていたので、これは意外だった。

三人目は藤村峯一さんだ。藤村さんは、なんとあの「スタッドレスタイヤ」の名付け親というすごい方だ。そんな藤村さんからは、プリントを使って私たちに知ってほしいと強く願うことを教えてくださいました。一つ目は「夢でなく、志をもつ」ということだ。志は夢と違い、社会に役立つ要素をもっている。これから生きるためには自分の得意分野をもち、社会に役立つ唯一無二の存在になることが必要となっていく。これは、山田さんのお話にも通じるものがあった。二つ目は、しっかり自己主張をするということだ。日本の教育は集団主義で、アメリカなどの個人主義の教育とは正反対だそうだ。藤村さんが外国で働くなかで、こうした違いから日本人があまり自己主張をしないことが良くないと感じたという。

この午前中のディレクトフォースで、普段なら絶対に聞けないことを聞くことができ、自分にも良い刺激となった。

次に企業大学訪問だ。私たちのグループでは、国際連合広報センターに行った。私は建物を見た瞬間そのスケールの大きさに圧倒され、説明を聞く前から興奮していた。そして、見学では国連の歴史やビル内の見学、ビデオ鑑賞などを行った。ビル内の見学では、あのアントニオ・グテーレス総長や首相が参加する会議場や図書館、天井が星空のようになっているエレベーターを見せていただいた。また、ビデオ鑑賞では、国連の活動内容やこれからの課題などをとても分かりやすく説明されており、より詳しくなれた。他にも、この広報センターでは、より身近に感じられるよう、吉本芸人とコラボして普及活動を行うことなどもされており、国連に少し堅苦しいイメージをもっていたので、とても驚いた。一時間が本当にあっという間で、一生の思い出に残るような体験だった。そして、私も再びあの場所にいけるように頑張ろうと思えた。

そして、一日目最後の行事は二高 OB,OG の先輩方との座談会だ。ここでは四人の先輩からお話を伺うことができた。まず、一人目の方からは、進路や高校生活についてアドバイスをいただいた。まず、進路については、自分の好きなものの共通点を見つけたり、自分を見つめなおしたりすることで、やりたいことが見えてきて大切だとおっしゃっていた。

そして、自分を見つめなおすうえで、自己紹介が有効だということだ。そのポイントは「N2SF」である。N は now、今のことについて。2S は2つの strong つまり、自分の強みを2つ、F は future 未来について。このように言われてみると、確かに自分の強みとはいったい何だ? となってしまう。これを良い機会として見つめなおしたいと思う。そして、高校生活を思う存分楽しんでほしいということだ。

二人目の方からは、勉強方法について教えていただいた。大切なことは、基礎・基本でこれをいかに固めているかで2年後全く違うそう。

三人めの方は、理系から文転して法学部になったということだ。実体験を語ってくださった。まず、文転したきっかけがなんとなくということで、とても驚いた。もともと研究職に就こうと思っていたそうなのだが、それも少し違うかもということで、現在司法試験を取得するために勉強している。人生なにが起きるかわからないものである。そして、これができるのは、日々の積み重ねがあったからだという。目の前の試験にむけて、コツコツ勉強することで、徐々に成績が伸びていったという。私もコツコツ型なので、このまま自分を信じて頑張りたい。そして、これは蛇足かもしれないが、先輩は家庭教師をしているそうで、時給が2500円だそう。これにはグループ全員が衝撃だった。

四人目の方は数学教師を目指して、勉強しているかただ。この方は塾に行かず、自分の力で、東大合格を勝ち取ったそう。私も塾には行っていないので、こうした方からの話は励みになった。この方の勉強法は教科書や授業をベースにし、基礎を重要視したものだ。東大に合格するような方でも基本をととても重視されていた。

この四人の先輩の共通点は思いっきり高校生活を楽しまれたことと基本を大切にコツコツ勉強されていたという点だ。私も先輩を手本に向上を目指す。

二日目は東大見学であった。午前には駒場キャンパス、午後には本郷キャンパスだ。午前中は駒場キャンパスや図書館を見学し、東大生のワークショップやプレゼンを聞いた。ワークショップは進路を見つめなおすというテーマで東大生とディスカッションしたり、なぜ東大を志望したのかを聞くことができた。また、プレゼンでは東大の魅力ということで、進学選択や一人暮らしについて詳しく教えてくださった。午後は本郷キャンパスで見学と模擬授業だった。赤門をくぐったその先には安田講堂があり、感動した。私もこの場所に立てるようなそんなレベルまで向上したいと強く願った。

さて、本題に戻ると、ここでは模擬授業がメインだ。樋口亮介、成瀬剛准教授のお二方から刑法についてのゼミを受けた。内容はかなりの難易度で、理解に苦しむところも多か

ったが、実際の授業を受けてみて楽しかったし、今まで興味がなかった刑法に少し関心をもつことができた。

この2日間は今までにない充実したものであった。先輩方のような、唯一無二の世界で活躍する人材になってみせる。

先生方、お世話になったすべての皆さん、ともに2日間行動した二高生のみんな、本当に本当にありがとうございました。